

第31回福生市青少年の意見発表大会



第31回

福生市青少年の 意見発表大会

記録集

と き

令和6年11月2日

と ころ

福生市民会館 小ホール
(つつじホール)

目 次

| | | |
|--|--------------------|--------------|
| 主催者挨拶 | 福生市青少年問題協議会会長 福生市長 | 加 藤 育 男 … 2 |
| 来賓挨拶 | 東京都議会議員 | 田 村 利 光 … 3 |
| 司会者紹介 | | … 4 |
| 意見発表 | | |
| 1 誰でも「自分らしく」 | 福生第二中学校 2年 | 倉 重 空 音 … 5 |
| 2 シェスタ制度の導入について | 福生第三中学校 2年 | 森 本 琉々華 … 7 |
| 3 I hope that no one will be hurt by slander | 福生第一中学校 2年 | 長 友 絢 美 … 9 |
| 4 当たり前の大切さ | 都立福生高等学校 1年 | 織 茂 鈴 … 11 |
| 5 現在の私にとっての福生市 | 都立多摩工科高等学校 1年 | 根 間 直 樹 … 13 |
| 6 緑の減少 | 福生第一中学校 1年 | 飯 田 彩加里 … 15 |
| 7 視覚障害者 | 福生第二中学校 2年 | 小 幡 美 空 … 17 |
| 8 AI と人間生活 | 都立多摩工科高等学校 1年 | 大 金 颯 真 … 19 |
| 9 ボランティアの重要さ | 福生第三中学校 1年 | 村 野 翠 音 … 21 |
| 10 教育の大切さ | 都立福生高等学校 1年 | 平 松 元 春 … 23 |
| 講評 | 福生市教育委員会教育部参事 | 森 保 亮 … 25 |
| 来賓挨拶 | 福生市議会議長 | 武 藤 政 義 … 28 |
| 令和6年度福生市善行少年表彰 | | … 30 |
| 令和6年度「家庭の日」図画・作文コンクール入選作品 | | … 34 |

主催者挨拶

福生市青少年問題協議会会長
福生市長 加藤 育男

皆さん、こんにちは。第31回青少年の意見発表大会が開催されるに当たり、御挨拶を申し上げます。本大会は、司会進行を含めて青少年自身が主役となり、進行していく素晴らしい取組です。本日御出席いただいている小学校、中学校、高校の校長先生方、日頃より御協力を賜り、誠にありがとうございます。

さて、福生第二小学校が150周年を迎え、その記念講演として、専門学習の時間に小学5年生と6年生を対象にお話しする機会がありました。その際、児童の皆さんから次のような質問を受けました。「なぜ市長になろうと思ったのですか。そして、市長になったらどのようなことをしたいですか。」とても真剣な質問であり、優しく、そして分かりやすく説明するのは少し難しかったのですが、ここで改めてお答えしたいと思います。

端的に言えば、私が市長を目指した理由は、「市民の主権」「人材育成」「人権尊重」という三つの柱を大切にしたいと考えたからです。施策の推進ももちろん重要ですが、それ以上に、このまちで市民が安心して暮らし、子どもたちが十分な教育を受けられる環境を整備することが必要だと感じています。また、その思いを胸に、市長としての職務を果たしてまいりました。

毎年この青少年の意見発表大会を拝聴するたびに、未来への希望を感じています。同時に、皆さんの発表から、これからの時代がわくわくするようなものになるだろうと確信しています。本日も是非、元気よく自分の意見を発表してください。大いに期待しています。また、意見発表大会後は、善行少年表彰、「家庭の日」図画・作文コンクール表彰式が行われます。それでは、よろしく願いいたします。

ありがとうございました。

来賓挨拶

東京都議会議員

田村 利光

皆さん、こんにちは。本日は中学生・高校生による意見発表大会が開催されるということで、御挨拶を申し上げます。皆さんの発表を楽しみにしていますが、冒頭に少しだけ、私自身の学生時代を思い返し、高校2年生の夏休みに経験したある出来事を少しお話しさせていただきます。

8月31日、夏休み最後の日の夜11時過ぎに宿題が一つ残っていたことに気付きました。その宿題は私の苦手な美術の課題で、自分の手を描くというものでした。なんとか20分ほどで仕上げ、次の日に学校へ提出いたしました。

自分では「20分にしては上出来だ。」とと思っていたのですが、美術の先生に見せた時に改めて自分の絵を見た際、「こんなに内容が薄い絵だったかな。」と思いました。その時に気付いたのは、自分が作った時と、人に見せた時では物事の本質が異なって見えることがある、ということです。文章やスピーチも同じではないでしょうか。自分が思ったことも、他人には違った見え方をすることがあります。

本日の意見発表大会では、皆さんが日頃感じていることや考えていることを、純粹に、そして真摯に表現していただけることと思います。たくさんの方の前でスピーチを行うことで、「どうすれば自分の考えをうまく伝えられるのか。」と考えるきっかけにもなるでしょう。今日一日、全力で頑張ってください。素晴らしい発表を期待しています。

ありがとうございました。

司会者紹介



福生市立福生第一中学校 2年 澤 田 朋 花



福生市立福生第二中学校 2年 鈴 木 颯 太



福生市立福生第三中学校 2年 村 野 心 夢

意見発表

誰でも「自分らしく」



福生市立福生第二中学校 2年

倉重 空音

私たちの社会には、異性を好きになる人がいれば、女性が女性を好きになる、男性が男性を好きになるといった同性を好きになるLGBTの人もあります。Lはレズビアンで、女性が女性と恋愛や性的関係をもつ人たちのことを言います。Gがゲイで、男性が男性と恋愛や性的関係をもつ人たちのことを言います。Bがバイセクシャルで、異性と同性の両方に恋愛や性的魅力を感じる人たちのことを言います。そして、Tがトランスジェンダーで、自分の生まれた性別とは違う性自認をもっている人たちのことを言います。彼らも他の人と同じように幸せになる権利をもっています。

しかし、このようなLGBTの方たちは、差別されることが多いです。他の人と好みが違うだけでいじめられたりして、そのいじめが原因で自殺をしてしまうことだってあります。今は女性の体をもった男性のタレントの方も、学生の際はLGBTであることが理由で、いじめられていました。今、日本ではLGBTの方たちの約7割がいじめを経験したことがあるという調査結果が出ています。いじめをする人たちは、自分が恋愛対象になることを恐れ、同性愛者に対して嫌悪感をもち、いじめをします。いじめられた人たちの中には、自分がLGBTであることやいじめを受けていることを誰にも打ち明けられず、自殺をしてしまう人が出ています。学校でのいじめを乗り越っても、その先の人生で何があるか分かりません。学校だけでなく、会社や職場で差別をされるかもしれません。同じ会社や職場の同性の人と付き合ったとしても、付き合っていることが他の人に知られてしまうと、

自分や恋人が差別を受ける可能性があります。そのようなことから恋人を守るために退職したり、別れたりしてしまうなんてことがあるかもしれません。幸せだったのに、他の人のせいで自分から幸せを壊さないといけなくなるのです。

私たちの「恋愛は異性とするもの」という考えは、多くの人たちの幸せと自由を奪ってしまいます。私は、他人が他人の恋愛に口を出すべきではないと思います。同性同士の恋愛だったとしても差別をするべきではないし、他人が口を出す必要もありません。同性同士で恋愛をする人もいるんだなと思い、認め、受け入れることが大切だと思います。他の国では、同性婚を認めているところもあります。今、日本でもパートナーシップ制度といった同性同士のカップルを婚姻に相当する関係と認められる制度の施行が進められています。

LGBTの人権尊重は、多様性を受け入れる社会をつくっていくためには大事なことだと思います。私たちの考えや言動を多くの人たちの幸せや自由を守るためには、変えていく必要があると思います。差別や偏見を無くし、LGBTの方たちと公平に過ごすことが、今の社会には必要です。でも、どうしてもLGBTに嫌悪感を抱く人もいるかもしれません。そういう人は認めなくてもいいから、その嫌悪感を差別やいじめといった形で表さずに、心の奥底にしまっていてほしいです。どんな人でも自信をもち、安心して、自分らしく生きられる社会になれば良いなど私は思います。

シエスタ制度の導入について

福生市立福生第三中学校 2年

森本 琉々華

私は全国の学校にシエスタ制度を取り入れるべきだと考えます。シエスタ制度とは約15分の仮眠休憩時間のことを呼びます。

シエスタ制度の目的は、学習の効率化にあります。昼食後、睡魔に襲われて勉強や仕事が捗らないといった経験したことはありませんか。

これからシエスタ制度を導入するにあたってのメリットを三つ説明します。

一つ目は生産性の向上です。昼食後は体内リズムや気温の上昇に影響され、パフォーマンスが乱れる時間帯です。ですがこの時間帯に仮眠を取り入れることで脳の疲れを取ることができ、その後の作業効率化が見込めます。

二つ目は、睡眠不足の解消です。仮眠は睡眠不足の解消にも役立ちます。人間の体は眠っている間にウイルスへの免疫力をつくるなどの影響がありますが睡眠不足に陥れば免疫システムが弱くなり、さまざまな病気にかかりやすくなります。さらには精神面でも落ち込みやすくなるなどの影響があります。シエスタ制度は健康を守る意味でも効果的です。

三つ目は、集中力の向上です。集中力の低下の原因は睡眠不足や長時間の作業です。そこでシエスタ制度を利用することで集中力が回復され、午後の作業でも集中して取り組むことがあります。

実際に福岡県の明善高校でシエスタ制度を導入したところ学校全体のセンター入試の成績が上がったり現役東大合格者が増加したそうです。他にも兵庫県の加古川中学校では少しの間シエスタ制度を導入した結果、「頭がさえた」、「ス

ツキリした」などの好意的な意見が出たということです。

このようにシエスタ制度にはメリットが多くあります。しかし、シエスタ制度にはしっかりと向き合わないとこれらのメリットが、全てデメリットになってしまう可能性があります。

そのデメリットとは、体内時計の乱れです。シエスタ制度で多く睡眠時間を取りすぎたために夜の睡眠の質が悪くなり、逆に睡眠不足を引き起してしまう場合があります。睡眠不足を解消するためのシエスタ制度が逆に体内時計を乱してしまうといった事態にならないよう、適度な時間な 10 分から 20 分間にすることが大切なのです。

このようにシエスタ制度を導入すると、デメリットもある中で多くのメリットがあります。デメリットは一人一人がシエスタ制度について向き合っていけば改善できる問題です。

私は、全国の学校にシエスタ制度を取り入れるべきだと考えます。

ぜひ、この意見について視野を入れて少しでも考えてみませんか。

I hope that no one will be hurt by slander



福生市立福生第一中学校 2年

長友 絢美

私は今回、改めて「人権」について理解するため調べてみました。簡単にいうと、人権とは、誰もが生まれながらに持っている、人間が人間らしく生きていく権利であり、人類が歴史の中で築いてきた財産のことです。

人権を守っていくためには互いの文化や価値などの違いを認め合い、相手の人権をみんなで守り尊重していくことが大切になってくると思いました。また、このことを一人一人が理解し、行動していかなければいけないと思います。

しかし、最近ではインターネットの普及に伴って「SNSによる誹謗中傷」などの人権侵害が増えてきています。簡単に情報を発信することができることや、名前や顔を知られずに情報を発信することが可能なので、現実よりも軽い気持ちで心ない書き込みをしてしまっている人が多くいることが大きな問題となっています。

今年の夏はパリオリンピックが開催されました。たくさんの選手がこれまでの努力を生かして最大限を出して競技を行っていました。その姿は見た人に感動や勇気を与えていて、多くの賞賛があがっていました。その一方で金メダル選手に「立っているだけで勝った」などの悪質なコメントを投稿したり、競技中にミスをしてしまった選手や、メダルが有力視されていたものの取れなかった選手など、SNS上で批判が相次いでいます。パリ五輪期間中に選手や関係者についての誹謗中傷の投稿が 8,500 件を超えているという記事さえも目にしました。私はそんなコメントを見るととても嫌な気持ちになります。そして、悪質なコメントをされた本人・選手はそれを見てどう思うのでしょうか。私は、深く傷つき不快な気持ちになると

思います。オリンピック選手だからといって、批判的な言葉を言われて傷つかないわけがありません。みんな、一人一人に、守られるべき・尊重されるべき人権があります。有名人だからといって傷つける言葉を言って人権を侵害してはいけません。人権は誰にでも平等にあるべきものです。

軽い気持ちで心ない書き込みをしたとしても、一度投稿したものは二度と取り消すことはできません。傷ついてしまった人の心もまたなかったことにすることはできません。だからこそ、自分が発信した言葉一つ一つに責任を持つことを大切にしていけることが必要だと思います。

普段の生活でも、思ったことを全て素直に言うことはあまりないと思います。それは SNS でも同じことです。一度、投稿する前に「これを言ってもいいのかな？」と考えてみてください。そうすればきっと、誹謗中傷は減るはずです。心ないコメントではなく、賞賛的なコメントをもっと増やして、互いを尊重し合い、認め合っ
て人権を“みんな”で守っていきましょう。

当たり前の大切さ



東京都立福生高等学校 1年

織茂 鈴

私は日常生活を通して、当たり前は当たり前ではないなと改めて感じています。朝起きること、ご飯を食べること、歯をみがくこと、ねむることなど、私たちが日々当たり前に行っていることは本当に当たり前なのでしょうか？

私は、友人から借りた拉致問題の本を読んでから「当たり前」について疑問を持ちはじめました。その本には、当時中学1年生だった横田めぐみさんの身に起きてしまったことについて書かれていました。部活動からの帰宅途中、いきなり襲われ、工作船で拉致されたそうです。いつも通りの部活動、いつも通りの帰り道だったはずなのに、めぐみさんはいきなり当たり前をうばわれてしまいました。突然拉致されて知らない国へ連れていかれるなんて、想像しただけでも怖いのに、それが私よりも年下のめぐみさんに起きてしまったなんて信じられません。本をきっかけに拉致問題について調べてみると、他にもたくさんの方が被害者がありました。とても悲しいなと思います。

拉致問題のことを知ってから、今までは当たり前に感じていたこと一つ一つがかけがえのないものだと感じました。せっかく気づくことができた当たり前の大切さを忘れないよう、拉致問題についてもっと深く学びたいと思います。拉致問題をこれ以上風化させないために、周りの人たちにも広めたいです。本を貸してくれた友人も、今の私と同じように拉致問題について広めたかったのかもしれない。

拉致問題について知ったからこそ気づくことのできた当たり前の日々の大切さ

を意識しながら生活することで、自分の人生を振り返ったとき、後悔はないと胸をはって言えることに一歩近づくと思います。拉致問題を社会的にも、自分の中でも、風化させないよう拉致問題についての知識を深めて、一日一日感謝の気持ちを忘れずに生活していきたいと思います。

現在の私にとっての福生市



東京都立多摩工科高等学校 1年

根間 直樹

現在の私にとって、福生市は過ごしやすい街になっています。理由は四つあります。

一つ目は若者の意見が言いづらいということです。私の場合今回の意見発表大会で自分の意見を発言することができますが、正直なところこの意見を言ったところで何も変わることはないのではないかと考えています。なぜなら未成年の高校生の意見だからです。そのため自分達の住みやすい街になっていかず、逆に住みづらくなってしまっているのではないのでしょうか。また今回の意見発表大会があるまで福生市青少年問題協議会や子ども政策課の存在や活動を知らなかったため、どんな事をやっているかなど SNS などで発信したりして多くの人目に止まるようにしていくべきだと考えます。

二つ目は、子供たちの遊びの選択肢が少なくなったということです。私が小学生の頃は近くの公園や広場でボール遊びや鬼ごっこなど、体を動かして遊んでいました。しかし現在の子供たちは友達とあまり公園に行かなくなり、家でゲームをするぐらいになっています。また中高生に関しても、外で遊ぶ場所はゲームセンターやカラオケなどしかなくなっています。また福生市は立川などの大都市などの近郊にあるという地理的理由から中高生が遊ぶことができる場所が極端に少ないという状況になっています。そのため、ゲームセンターなどに限らず、中高生も無料または安価に利用できるバスケットゴールやスケートパーク、フットサルなどがある公園や公共施設を増やすべきだと考えます。

三つ目は、ゴミのポイ捨てが目立って不潔だということです。最近、福生市においても道端などにタバコの吸い殻やペットボトルなどがポイ捨てされているのが目立っていると感じています。そのため、私は、ゴミ拾いのイベントを開催すべきだと考えます。このイベントで重要なのは、楽しくゴミ拾いをするということです。よって参加者はボランティアなどの意識が高い人だけではなく、全年齢対象として多くの人気軽に参加できるよう、市全体のイベントとして開催すべきだと考えます。さらに、拾ったゴミの量に応じて報酬を用意し、ランキングを作ってゲーム感覚で競い合うようにすれば楽しくゴミ拾いができると思います。

最後の四つ目として地域の人と交流する場や機会が全く無い状態になっています。そのため、全年齢対象として多くの人参加でき、また今の社会で孤独を感じている人や一人暮らしの高齢者のみなさんも気軽に参加交流できる場を作ることによって孤独を和らげることができ元気や活力を与えることができると思います。さらに交流する場を作ることによって一人でいる高齢者を救うことができたり、悩みを話して気が楽になったり、さらに協力し合えるようになると思います。そのため、地域の人と交流する場をもっと作るべきだと強く考えます。

緑の減少



福生市立福生第一中学校 1年

飯田 彩加里

よくニュースなどで「世界に誇れる大都市・東京へ」という言葉を聞くことがある。しかし現状、東京には多くの課題がある。高齢化や人口減少、空き家の増加や物流問題など課題はさまざまだ。

その中で私が特に重大な問題だと感じたのが、緑の減少だ。政治・経済・産業・教育・文化などの諸機能が集積する日本の首都東京。外国からの観光客なども増えている。だからこそ、都市開発の際にビルやマンションなどを建てるため、森林が伐採されたり、自然が壊されたりしてしまうのだ。

こうした現状から、東京都は「みどりの取組」というものを掲げた。これは、東京の緑を「まもる」「育てる」「活かす」という三つの観点で新たに強化するというものだ。主な取組としては、保全地域を指定し、公有地化したり、樹木を残す仕組み「ツリーバンク」を創設し、管理が必要な樹木を管理したり、さまざまな世代の人に緑に触れ、親しんでもらうための参加型体験プログラムを開催したりと色々な取組をしている。

なぜここまでして緑を大切にするのか？それは緑が、都市活動を支える重要な役割を担っているからだ。美しい都市景観を創り、魅力ある観光資源となるとともに、都民の生活に潤いと安らぎを与え、にぎわいの場にもなる。それだけではなく、延焼防止や生物多様性の保全にもつながる。このことから、緑は都民や観光客などが安心、安全で快適な生活を送るために必要不可欠といえる。

この現状を知り、私は東京の緑を守り、育てることに少しでも協力したいと思っ

た。具体的に何をすれば緑を守り、育てることにつながるだろうか。まず、こうして現状を調べて知ること。これはすごく重要なことだ。そして、それを誰かに伝えることも。そうやって、みんながこの現状を知ること、日常生活の中で少しでも緑を意識するというのが第一歩だと思う。それに加え、地域で行われる緑を守る参加型体験プログラムに参加することや、「緑の募金」に募金をすること、国産材の製品や、環境にやさしい商品を使うこと、ポイ捨てをしないこと、これらのこと全てが緑を守り、育てることにつながっている。他にもまだまだ方法はあると思う。よければ調べてみてほしい。

私は調べてみて、改めて緑の大切さに気づいた。未来の東京にも緑が残り、人々の生活を支えてくれたらいいなと思う。

視覚障害者



福生市立福生第二中学校 2年

小幡 美空

私には視覚に障害のある祖母がいます。祖母は、私が小さい頃から目がほとんど見えていなくて、光を少し感じられるくらいでした。だから、私は祖母と一緒に生活するうえで、物の形を説明したり、道を歩く時には必ず手をつないで歩いたりすることは、私にとって当たり前のことでした。そんな祖母と一緒に生活している私は、知的障害など色々な障害について考えるようになりました。また、ヘルプマークの意味についても理解しようと思いました。

そんな時祖母が、電車に乗る機会がありました。付き添いは祖父でした。祖母は視覚障害者なので、ヘルプマークをバッグに付けています。そして、祖母と祖父は優先席に座っていました。その時に年配の男性から「何でお前たちみたいのが座っているんだ。」と言われたそうです。祖母がバッグに付けていたヘルプマークが見えていなかったのか分かりませんが、その後も祖父が説明しようとしても大きい声で「俺が座る席だ。」と怒鳴られたそうです。ふだん電車に乗らないため、乗るだけでも大変だったはずなのに。このようなことを言われた祖母は、とても怖かったと思います。私はこの話を聞いた時に、すごく悲しくなりました。確かに祖母の目は、周りの人からすると目が見えているように見えます。しかし、ヘルプマークを付けていたのに、なぜこのようなことを言われなければいけなかったのか、私は理解することができませんでした。

私は、このことについて障害のある人、ない人なんて関係なく、たくさんの人たちがもっとヘルプマークのことや障害について学ぶ必要があると思いました。そ

して、障害のある人たちが、過ごしやすい環境になってほしいと思いました。私はそのために、今知っていることだけでなく、もっと色々なことを深く知ろうと思いました。手話や点字、困っている人がいたら、どのような声掛けをしたら良いのかなどを勉強して、いつか誰かの助けになれるようにしていきたいです。

AI と人間生活



東京都立多摩工科高等学校 1年

大金 颯真

最近、AI って言葉をよく耳にするようになりましたよね。AI はアーティフィシヤル・インテリジェンスの略で、人工知能と訳します。AI は映画やアニメの中だけの話だと思っていたのに、気づけば私たちの生活の中にすっかり入り込んでいます。今日は、そんなAI がどうやって私たちの生活を変えているのかについて話してみたいと思います。

まず最初に、スマートフォンやパソコンに入っているAI アシスタントについてです。皆さんもSiri やGoogle アシスタントを使ったことがあると思います。「今日の天気は？」とか「音楽かけて」って頼むとすぐに答えてくれますよね。ちょっとしたことでも手を使わずに頼めるのは、忙しい時や手がふさがっている時に本当に便利です。

次に、エンターテインメントの分野でもAI は大活躍です。例えば、Netflix で映画を観ていると、自分の好みに合った作品をどんどんおすすめしてくれる機能がありますよね。これはAI が過去に観た作品や評価を分析して、好きそうな映画やドラマを教えてくれるからなんです。音楽を聴くアプリのSpotify でも同じように、自分の好きな音楽をどんどん見つけてくれます。

また、健康管理にもAI が役立っています。スマートウォッチをつけていると、心拍数や歩数、睡眠の質まで検知して教えてくれます。これもAI がデータを分析しているおかげです。さらに、病院ではAI がX線写真を解析して病気を早期のうちにするのを助けてくれるんです。これによって、もっと早く治療を始められるこ

とも増えています。

教育の場面でも AI はすごいです。例えばオンライン学習やオンライン上でできる問題集では、AI が自分の学習の進み具合を見て最適な問題を出してくれたりします。これで自分のペースに合わせて勉強できるので、効率よく学べますよね。また、言語学習アプリでは発音のチェックや文法のアドバイスをしてくれる機能もあります。

交通手段に関しても AI の力を感じます。自動運転車なんてまさにドラえもんの世界でしか見たことのないような乗り物ですよ。AI が運転を全部やってくれるので、安全性も高まるし渋滞も減ると言われています。このような AI が普及すればお盆やゴールデンウィーク中の高速道路なども快適に進むことができると思います。

しかし、AI は人間に対し時には損を与えることもあります。この調子で AI が成長を続けたら色々な仕事が AI に取られてしまいます。先程述べた自動運転機能もタクシードライバーの仕事を奪ってしまったり、ものを運んだりするロボットもスーパーマーケットやコンビニの品出しなどの仕事を奪ってしまいます。そう考えると AI が発展するのも少し迷惑な気がします。

こうして見ると、AI が私たちの日常生活にどれだけ深く関わっているかがわかります。しかし、AI がいくら便利だからといって、プライバシーや倫理的な問題も忘れてはいけません。よって、私たちはこれからも AI と上手に付き合っ、もっといい生活を目指していくことが大事だと思います。そのため、私は、その明るい未来のため、AI についてもっと深く学んで行きたいと思います。

ボランティアの重要性



福生市立福生第三中学校 1年

村野 翠音

私は、今年の夏五つのボランティアに参加しました。なぜ参加したのかは、自分が気になって参加しました。

ボランティアをいろいろやりましたが、一番印象に残ったのが、七夕祭りのスタッフボランティアです。七夕祭りのボランティアでは、お昼の12時から夜の20時まで働きました。七夕祭りのステージスタッフの仕事をやっている、私は、プラカードを持っていました。

プラカードを持ち、来場者の方々に、「こんにちは、ご来場ありがとうございます。」と、あいさつをすると、来場者の多くの方がおじぎをしてくれたり、「こんにちは、おつかれ様です。」など声をかけてくれました。

ステージスタッフでは数十人の学生達が参加をされていて、スタッフの皆さん協力をして働き無事におわりました。

私は今回のボランティアの活動で市役所のスタッフの方が「助かった。」や「ありがとうございます。」などと声をかけてくれて、嬉しかったのを覚えています。

ボランティアは、自分から参加をし、人を助けたり、手伝ったりをします。ボランティアに参加すると、参加したあとに、「おつかれ様、ありがとうございます。」などと声をかけてもらって何回参加しても必ず、この言葉をかけてもらい絶対にやって良かったと思えます。人数が足りていないボランティアなどもたくさんあります。例えば災害が起こった際の復興ボランティアなど。全国で、ボランティアに参加をしている人数は約740万人です。人数が足りていないところがあっても、必ずこの740

万人全員が参加をするということは何があっても、さすがに不可能です。そして、ボランティアに参加する人は、あまり居ません。私は友達などにも、ボランティアをしたことがあるかと聞くと、多くの方が無いと答えました。

私は、この日本の一人でも多くボランティアに参加し、よりよい日本を作れるように、これからも、ボランティア活動にたくさん参加をし、たくさん貢献していこうと思います。

教育の大切さ



東京都立福生高等学校 1年

平松 元春

私はこの教育の大切さというテーマに決めた時正直な事を言うと変えようと思いました。なぜなら単純に教育または勉強がものすごく嫌いだからです。ですが自分と同じ気持ちの人は日本にまたは世界に多くいるのでここで私が教育の大切さについて書けば多くの人の心に響くのではないかと思いこのテーマに決めました。

では教育の大切さについて話します。

私たち人間は幼稚園または保育園から勉強を始めています。考え方を換えれば生まれた瞬間から勉強を始めています。

人間一度は誰も思ったことがあるでしょう。「勉強したくないな」、「勉強って将来役に立つのか」と。

現代の社会では学力社会とも言われるほど勉強が必要なのです。それにプラスしてAI化が尋常でない早さで進んできています。それに伴い職を失う人も多く出てきているのが現状です。ここで気づく人も少なくはないと思います。教育の大切さを。

データを用いて説明していきます。

まず義務教育が終了した中学校で学ぶことを終え働くとしみます。それで平均年収がどのぐらいになるのか調べました。例外はありますがおよそ250万円でした。

では高校を卒業した後に職に就いた場合で調べます。およそ264万円です。ここで既に14万円もの差が開いているのが分かります。

それでは短大、大学を卒業した場合を見ました。短大はおよそ278万円、大学は

369万円という結果でした。自分でも正直こんなに変わるのかと驚いています。

何回も言いますが教育は大切です。ですが、勉強をしたくてもできない人もいます。実際私の母は中学までは成績優秀で高校も学力の高いところへ行く予定だったと聞いています。学力の高い高校へ行き、英語の教師になりたかったそうです。ですが母の家庭はお金に恵まれず高校もレベルを落とし、なりたかった英語教師になれませんでした。そこで教育はもちろん大切ですがそれよりも教育をサポートする人がもっとも重要だと考えます。そこから自分は教育をサポートしてくれる人が多くいて、大学に進学させてくれる人が多くいて、大学にも進学させてくれる親がいるのでレベルの高い大学に進学したいと考えています。ですがそこが自分のゴールではなくて母の夢でもあった教師になるというのがゴールです。

もし私が教師になったらこの作文に書いた教育の大切さを生徒に伝えます。

また絶対に人気な教師になれると信じています。なぜなら誰よりも勉強が嫌いだからです。そのためには日々の努力を惜しまず、ものすごく辛い思いをしなければならないと思います。ですが私は絶対教師になります。自分のためにも母のためにも。

ただ今、御紹介いただきました、福生市教育委員会教育部参事の森保でございます。

31 回目を迎える福生市青少年問題協議会主催「福生市青少年の意見発表大会」に、講評者として参加をさせていただきました。中学校、高等学校 10 名の生徒の皆さんによる熱い思いのこもった発表を伺い、私自身の心はもとより、この会場にお集まりの皆さんが、心地よい空気に包まれていることと思います。今年は元旦から能登半島で大きな地震に見舞われ、世界を見るとウクライナや中東で戦争が激化したり、悪いニュースが相次いだ年となってしまいました。このような中で、今年も本大会が無事に開かれたことを大変うれしく思っています。

さて、10 名の生徒のみなさんの発表を拝聴し、改めて、様々なことを考えさせられました。毎年、生徒の皆さんが、新たな社会問題や旬な話題に着目し、真摯に向き合い、中学生、高校生だからこそ持ち得る感性から素直に表現されていて、大変胸が熱くなる思いです。

さらに、このような会を企画し、長年継続、実施されてこられた加藤育男会長を始めとする福生市青少年問題協議会の皆様に改めて敬意を表するものでございます。

それでは、お一人一人の御発表について、一言ずつではございますが、感想を述べさせていただきます。

1 福生市立福生第二中学校 2年 倉重 空音 さん

「誰でも「自分らしく」

「他人が他人の恋愛に口をだすべきではない」「どんな人でも自信を持ち、安心して、自分らしく生きられる社会になればいい」倉重さんの意見は、とてもわかりやすく、会場の皆さんの心に届いたのではないのでしょうか。多くの LGBTQ に人が自分自身を責め、最悪は命を落とすということについては、まぎれもない事実です。大切なことは、まず「性同一性障害者」や「性的指向」について、人々が正しく理解し、認識を深めることだと考えます。性的マイノリティの方々の苦しみや悩みを踏まえ、その立場になって考えている倉重さんの意見が、差別のない世の中に向けた第一歩となることを願っています。

2 福生市立福生第三中学校 2年 森本 琉々華 さん

「シエスタ制度の導入について」

学校生活で、いわゆる「仮眠」を取り入れるという、とても面白い意見発表でした。実は、学校だけではなく、企業でもこの仮眠による制度取り入れて、森本さんの発表にあったような成果を出しているところもあると聞いています。私も、午後の集中力を保つため、昼休みは 10 分程度自席で仮眠とっています。現実的には、学校の生活時程で取り入れていくには、反対意見もあるため、簡単なことではないと思いますが、どのようにしたら、効率的に学習が進められるか、抜本的に今の制度にメスを入れようとしているその姿勢がたいへんすばらしいと思いました。ぜひとも生徒間で取り入れるメリットとデメリットを議論してほしいと思います。

3 福生市立福生第一中学校 2年 長友 絢美 さん

「I hope that no one will be hurt by slander」

デジタル技術は日々進歩し、インターネットは、今や生活の中で欠かすことのできないものとなりました。その一方で、SNS 等を悪用し、個人に対して誹謗中傷を行う、許しがたい事件や事故が連日報道されています。責任ある情報発信、拡散、コメント、そして、流れている情報が正しいのか見極めること。意見発表にあった「自分が発信した言葉一つ一つに責任を持つこと」は、本当に大切です。この意見発表が、長友さんのように、相手のこと、周りのことを考えて生活できる人が一人でも増えるきっかけとなり、温かい言葉のキャッチボールが繰り返される社会が実現することを願ってやみません。

4 東京都立福生高等学校 1年 織茂 鈴 さん

「当たり前の大切さ」

拉致問題は、我が国の主権に対する侵害であるとともに、重大な人権侵害です。被害にあわれたご本人はもとより、最愛の子を突如失ったご家族の心境は筆舌に尽くしがたく、織茂さんの発表を聞いて、改めて風化させてはいけないものと感じさせられたすばらしい発表でした。ご存じのとおり、被害者家族の会もだいぶ高齢になり、国民の関心が薄くなっていると聞きます。織茂さんのような、若い世代が、この拉致問題に興味を持ち、多くの方がこの拉致問題について、ご自身の思いを発信してほしいと思います。そして、一日でも早く拉致問題が解決し、ご家族に当たり前の毎日が戻ってくることを心から願っています。

5 東京都立多摩工科高等学校 1年 根間 直樹 さん

「現在の私にとっての福生市」

「現在の私にとって、福生市は過ごしづらい街になっています。」この冒頭は、私を含む福生市の職員にとって、とてもインパクトがある一言でした。そして、この発表を真摯に受けなければならないとも感じました。根間さんは、高校生の立場から福生市の課題を大局的に捉えただけでなく、ボランティア活動等の改善案まで示されていて、若者の意見としてとても貴重な発表だったと思います。私は、市の職員を代表して言える立場ではありませんが、根間さんが福生市を住みやすい街にしたいと思っているように、実は市の職員も全員が同じ思いで、様々な仕事を行っています。根間さんのように、福生市のことを考えてくれる若者が増えてほしいと思いました。

6 福生市立福生第一中学校 1年 飯田 彩加里 さん

「緑の減少」

数ある東京都の問題の中で、飯田さんは「緑の減少」に着目し、なぜ緑が減少することが問題なのか、東京都はどのように対応しているのか、そして飯田さんはどんなことを取り組むのかが明確に述べられていました。特に感心したのは、緑が減少することにより、美しい都市景観を壊してしまうことだけでなく、延焼防止や生態系の保全にまで言及し、幅広く捉えていることでした。緑を増やしていくことは、飯田さんが述べられたように、難しいことではなく、一人一人が意識をもって行動することなのかもしれません。福生市でも平成 26 年度から市長肝いりの政策として「環境マネジメントシステム (F-e)」に取り組んでいます。ぜひこの取組も調べてくれるとうれしいと思いました。

7 福生市立福生第二中学校 2年 小幡 美空 さん

「視覚障害者」

障害の種別によって、一目でその困難さが理解できる場合と、一見すると障害があるように思えない場合があります。どのような障害であっても、日常生活では、何かしらの困難さが生じることは間違いありません。もし、多くの人たちが障害について学び、その気持ちを理解できるのであれば、小幡さんのご家族のように、電車の中で、つらい経験をされずに済んだのではないかと思います。今、世間では、インクルーシブ社会の実現を目指して様々な取組を行っています。大切なのは、障害について学んでいこうとする姿勢であり、そのように思う人が一人でも増えてほしいと心から思いました。

8 東京都立多摩工科高等学校 1年 大金 颯真 さん

「AI と人間生活」

AI 技術の可能性は無限大ともいわれています。スマートフォン一つをみても、毎年のように進化した AI 機能が搭載された新機種が販売され、2年前のものは時代遅れの様相です。この AI のおかげで、確実に人々のくらしは豊かになっていますが、あえてそこに着目し、危険性まで理解した上でさらなる活用を目指そうとする大金さんの着眼点に高校生としてのすばらしさを感じました。大金さんの発表にもありましたが、AI の進歩で仕事を失うのではと思っている大人が少なくありません。しかし、大金さんのような若い方々が社会に出られるころには、進歩した AI を活用した新しい仕事も数多く誕生し、夢がある世の中になってほしいと思いました。

9 福生市立福生第三中学校 1年 村野 翠音 さん

「ボランティアの重要性」

村野さんご自身のボランティア体験から、より深く考察された発表であると感じました。七夕まつり等のイベントボランティアは、みんなでこの福生市を盛り上げていこう、みんなで作ってあげようという想いで参加するもの、一方、復興ボランティアは、生活が困っている人たちを助けたいという想いで参加することになります。どちらも、人のために役に立ちたいという想いがなければなりません。そして、ボランティアに応募するという実行力や調整力も必要です。被災地に行って復興ボランティアを行うことは難しいですが、村野さんのように、人の役に立ちたいという人が一人でも増え、ボランティア活動を行う人が増えてほしいと思いました。

10 東京都立福生高等学校 1年 平松 元春 さん

「教育の大切さ」

ご家族が成し遂げられなかった夢を追いかけようとする、平松さんの強い意気込みとご両親への感謝の気持ちを感じられた発表でした。昔に比べて大学の進学率は大幅に上がっていますが、一方で家庭的な事情により、進学をあきらめる人も一定数いると聞きます。日本では世界に比べると給付型奨学金が少ないのも理由の一つなのかもしれません。理由は様々あるかとおもいますが、誰もが自分の夢を追いかけられる世の中になってほしいと思いました。平松さんは、勉強が嫌いだからこそ、勉強が嫌いな生徒の気持ちがわかる教師になりたいということなのでしょう。数年後は教壇に立っていることを期待しています。

以上、雑駁ではございますが、10名の生徒による意見発表への講評とさせていただきます。本日、意見発表をしてくださった生徒の皆さんの考えがきっかけとなり、中学生、高校生の皆さんが、熱い議論を交わしてくれることを、さらには、家庭や地域に、その議論が広がっていくことを心待ちにしています。

結びに、本日発表をしてくださった生徒の保護者の方々、日頃より生徒の御指導に当たられている3校の中学校の先生方、東京都立福生高等学校、東京都立多摩工科高等学校の先生方、本会の事務局を担当された福生市子ども政策課の皆様に感謝申し上げます。

来賓挨拶

福生市議会議長
武藤 政義

御紹介いただきました福生市議会議員の武藤政義でございます。本日は多くの市議会議員がこの場に出席しておりますが、代表して御挨拶を申し上げます。

2年前、成人年齢が20歳から18歳に引き下げられ、さらに8年前には選挙権が20歳から18歳に引き下げられました。本日、中学生・高校生の皆さんによる意見発表を拝聴し、その素晴らしさに感銘を受けました。これほど素晴らしい発表ができる皆さんならば、さらに成人年齢や選挙権を引き下げて良いのではないかと思えるほどです。

皆さんの日々の生活には、楽しいことや感動したことがある一方、不満に思ったことや腹がたったこともあると思います。楽しいことや感動したことは、より多くの人と共有し、さらに広げていただきたいと思います。また、不満に感じたことや改善が必要だと思ったことは、是非意見として発信し、まちの改善に役立ててほしいと思います。そうした積み重ねが、地域をより賑やかで素敵な場所にしていくのだと思います。

本日、意見発表を行った皆さんや善行少年表彰、「家庭の日」図画・作文コンクールで表彰された皆さんは、これからのまちづくりの中心となる存在です。どうかこれからも多くの意見を出し合ってください尽力していただきたいと思います。そして、市議会といたしましても、若い皆さんの声を真摯に受け止め、まちづくりに生かしていく所存です。

ありがとうございました。

令和6年度 福生市青少年の意見発表大会 実施要綱

主 催

福生市青少年問題協議会

趣 旨

中学・高校生に日常生活を通じて考えていることや体験などを自由に発表させることにより、自立心、創造性、社会性を育てる機会とするとともに、広く一般市民が中学・高校生の意識や行動に対する理解を深め、青少年健全育成の充実に資することを目的とする。

応募資格

市内在住・在学の中学生、高校生（国・公・私立を問わない）

主 題

自由（学校、家庭、地域のかかわりの中で日頃考えていることや体験などを中心に、自由課題とする。）

応募方法

- 1 発表する内容を400字詰原稿用紙に縦書きで、3～4枚程度にまとめる。（手書きの場合は、濃くはっきりとした文字で、原本を提出）
- 2 原稿のはじめに、題名、学校名、学年組、氏名、住所を記入する。
なお、ここで得た個人情報は、大会以外の目的には使用しない。

応募締切、提出先

令和6年9月6日（金）までに福生市役所子ども政策課子ども政策係へ提出（必着）

発表者の選出及び発表方法

応募者が多い場合は、必要に応じて主催者が原稿審査のうえ発表者を十名程度選出する。

記念品の贈呈

応募者全員に参加賞を贈呈するほか、発表者には賞状並びに記念品を贈呈する。

広報等

- 1 市内各中学校・高等学校に依頼し、周知を図る。
- 2 市広報、ホームページへの情報掲載
- 3 市内各所へのポスター掲示、チラシ配布等

発表大会

- 1 日 時 **令和6年11月2日（土）午後2時から**
- 2 場 所 福生市民会館小ホール
- 3 発 表 者 主催者が選出した者
- 4 発表の方法 応募した原稿に基づき、本人が5分程度で発表する。
- 5 リハーサル 令和6年10月29日（火）午後4時から（予定）

その他

市広報、ホームページ等により、発表者の氏名、写真等の情報を掲載するとともに、記録集の作成・配布を行います。

問合せ

福生市役所 子ども家庭部 子ども政策課 子ども政策係
電 話 042-551-1733（直通） F A X 042-551-2133

令和6年度 福生市善行少年表彰 被表彰者一覧

- ①福生第一小学校 久保田 耀 環境委員会委員として校内美化等に積極的に取り組み全校児童の環境整備に関する意識の向上に貢献した。
- ②福生第一小学校 阪本 茉那 環境委員会委員として校内美化等に積極的に取り組み全校児童の環境整備に関する意識の向上に貢献した。
- ③福生第一小学校 村吉 晟 環境委員会委員として校内美化等に積極的に取り組み全校児童の環境整備に関する意識の向上に貢献した。
- ④福生第一小学校 中尾 有希子 環境委員会委員として校内美化等に積極的に取り組み全校児童の環境整備に関する意識の向上に貢献した。
- ⑤福生第一小学校 本田 結菜 環境委員会委員として校内美化等に積極的に取り組み全校児童の環境整備に関する意識の向上に貢献した。
- ⑥福生第一小学校 小山 優希 環境委員会委員として校内美化等に積極的に取り組み全校児童の環境整備に関する意識の向上に貢献した。
- ⑦福生第二小学校 村上 惺海 日頃から動物への愛護の精神を持ち飼育委員会において学校の長期休業中も積極的に動物の世話に取り組んだ。
- ⑧福生第二小学校 野本 大碧 日頃から動物への愛護の精神を持ち飼育委員会において学校の長期休業中も積極的に動物の世話に取り組んだ。
- ⑨福生第三小学校 小泉 晴大 代表委員会委員長として学校全体や学級のためになる活動に積極的に取り組んだ。
- ⑩福生第四小学校 宮本 和季 地域の清掃活動に継続して積極的に参加し環境美化や環境衛生に尽くした。
- ⑪福生第四小学校 新城 奏 地域の清掃活動に継続して積極的に参加し環境美化や環境衛生に尽くした。
- ⑫福生第五小学校 小峰 ひびき 野鳥観察会において指導役として中心的な役割を担い積極的に河川の清掃に取り組んだ。
- ⑬福生第五小学校 来住野 芹奈 野鳥観察会において指導役として中心的な役割を担い積極的に河川の清掃に取り組んだ。
- ⑭福生第五小学校 原 愛華 野鳥観察会において指導役として中心的な役割を担い積極的に河川の清掃に取り組んだ。
- ⑮福生第五小学校 山根 穂佳 野鳥観察会において指導役として中心的な役割を担い積極的に河川の清掃に取り組んだ。
- ⑯福生第五小学校 樋口 映 野鳥観察会において指導役として中心的な役割を担い積極的に河川の清掃に取り組んだ。
- ⑰福生第六小学校 吉永 健吾 児童代表委員会において活発な意見交換など積極的に学校運営に携わったほか下級生と関わる機会において大変優しく接した。
- ⑱福生第六小学校 吉田 岳 福生市剣友会で剣道の練習に励み好成績を収めたほか学校生活においても積極的に一年生の補助を行った。

- ⑲福生第七小学校 村野 涉 「七小3年1組挨拶隊」を結成し主体的に朝の挨拶運動を行い学校内外に良い影響を与えた。
- ⑳福生第七小学校 石塚 志野 「七小3年1組挨拶隊」を結成し主体的に朝の挨拶運動を行い学校内外に良い影響を与えた。
- ㉑福生第七小学校 木佐 光稀 「七小3年1組挨拶隊」を結成し主体的に朝の挨拶運動を行い学校内外に良い影響を与えた。
- ㉒福生第七小学校 梁瀬 綾斗 「七小3年1組挨拶隊」を結成し主体的に朝の挨拶運動を行い学校内外に良い影響を与えた。
- ㉓福生第七小学校 ナラタ ハヅレ ヴィン 「七小3年1組挨拶隊」を結成し主体的に朝の挨拶運動を行い学校内外に良い影響を与えた。
- ㉔福生第一中学校 藤田 直輝 福生市教育委員会主催の「福生市子ども議会」や「いじめ防止サミット」に参加し自らの意見を発表し議論の発展に大きく貢献した。
- ㉕福生第一中学校 野川 碧叶 踏切内で閉じ込められた足の不自由な高齢者に対し手を差し伸べて救出活動を行った。
- ㉖福生第一中学校 森谷 アブドゥライ 踏切内で閉じ込められた足の不自由な高齢者の自転車を持ち救出活動を行った。
- ㉗福生第二中学校 小林 久乃 福生市教育委員会主催の「いじめ防止サミット」に参加し自らの意見を発表し議論の発展に大きく貢献した。
- ㉘福生第二中学校 北島 陽人 「第2学年リーダー推進委員会」を発足し委員として清掃活動などに積極的に取り組み学年の改革に尽力した。
- ㉙福生第二中学校 木橋 春翔 「第2学年リーダー推進委員会」を発足し委員として清掃活動などに積極的に取り組み学年の改革に尽力した。
- ㊀福生第二中学校 渡邊 雄一郎 「第2学年リーダー推進委員会」を発足し委員として清掃活動などに積極的に取り組み学年の改革に尽力した。
- ㊁福生第二中学校 大勝 勇輝 「第2学年リーダー推進委員会」を発足し委員として清掃活動などに積極的に取り組み学年の改革に尽力した。
- ㊂福生第二中学校 鴛淵 亮祐 「第2学年リーダー推進委員会」を発足し委員として清掃活動などに積極的に取り組み学年の改革に尽力した。
- ㊃福生第三中学校 川端 咲姫 地域のボランティア活動への参加促進に貢献したほか福生市教育委員会主催の「いじめ防止サミット」に参加しいじめ防止の機運を高めた。
- ㊄都立福生高等学校 加藤 柔太 福生市主催の「平和のつどい」において司会及び意見発表を行い平和の尊さを伝える取組に貢献した。
- ㊅都立福生高等学校 市丸 愛香 福生市教育委員会主催の「いじめ防止サミット」に参加しファシリテーター及び小中学生アドバイザーを務め活躍した。
- ㊆都立福生高等学校 野谷 輝 福生市主催の「平和のつどい」において司会及び意見発表を行い平和の尊さを伝える取組に貢献した。
- ㊇都立福生高等学校 生徒 会 福生市主催の「地域懇談会」に参加しファシリテーターとして小学生が発案した未来の学校へのアイデアを発展させ活躍した。

- ⑳都立多摩工科高等学校 出口 紗羽 福生市教育委員会主催の「いじめ防止サミット」に参加しファシリテーター及び小中学生アドバイザーを務め活躍した。
- ㉑都立多摩工科高等学校 天海 優成 福生市教育委員会主催の「いじめ防止サミット」に参加しファシリテーター及び小中学生アドバイザーを務め活躍した。
- ㉒都立多摩工科高等学校 ハンドメイド部 ものづくりの楽しさや魅力の発信などにより積極的に地域との交流を深めた。
- ㉓加美町囃子連 ターソムバト 千花奈 地域の囃子連の活動に励み祭りや行事への積極的な参加により伝統文化の継承に貢献した。
- ㉔加美町囃子連 笹本 リティカ 地域の囃子連の活動に励み祭りや行事への積極的な参加により伝統文化の継承に貢献した。
- ㉕加美町囃子連 若崎 美桜 地域の囃子連の活動に励み祭りや行事への積極的な参加により伝統文化の継承に貢献した。
- ㉖奈賀町はやし連 浅見 未羽 地域の囃子連の活動に励み祭りや行事への積極的な参加により伝統文化の継承に貢献した。
- ㉗熊牛囃子連 森田 心 地域の囃子連の活動に励み祭りや行事への積極的な参加により伝統文化の継承に貢献した。

外2名

第1条 趣旨

少年でその行為が他の模範となると認められるものを表彰し、広く少年の公德心の高揚と、より良き社会環境を作り、少年の健全な育成を図ることを目的とする。

第2条 表彰主体

福生市青少年問題協議会

第3条 対象

福生市に居住する少年又は、市内に通学若しくは通勤している少年で、令和6年4月1日現在18歳未満の者とする。

第4条 表彰の方法

- 1 表彰は、個人、団体（主に18歳未満で構成されたもの）及び協力行為表彰（個人ごとに表彰）とする。
- 2 表彰は、原則として継続的行為とする。
- 3 表彰は、賞状と記念品を贈呈する。

第5条 表彰時期

年一回とし、推薦により表彰する。ただし、必要に応じ随時表彰することができる。

第6条 被表彰の決定

別紙様式による表彰候補者を審査委員会にて選考し、青少年問題協議会長（以下「会長」という。）が決定する。

第7条 審査委員会

審査委員会は、青少年問題協議会委員のうちから会長が選任する若干の委員をもって構成する。

第8条 推薦者

推薦者は、関係機関、各団体、事業所等の代表者とし、機関決定のうえ、推薦書をもって推薦する。

第9条 推薦内容

- 1 公共生活への貢献 …公共物の愛護、公衆道徳の普及実践、公共利益となる工夫その他公共団体、地域、学校、職場に尽くした行為。
- 2 事故防止 ……交通事故、水難防止、その他の事故防止に尽くした行為。
- 3 環境美化 ……清掃美化、ごみ減量運動等に協力、その他環境美化、環境衛生に尽くした行為。
- 4 隣人愛 ……隣人や友人など身近な人とのふれあいや仲間作りに対して、思いやりの心を持って中心的役割を担う行為。
- 5 個人生活の徳行 ……個人生活で特に他の模範となる行為。
- 6 防犯 ……犯人逮捕を容易ならしめるための協力で特に顕著な者、その他防犯に尽くした行為。
- 7 防火 ……火災の通報（早期発見）、消火を容易ならしめるための行為で顕著な者、その他防火に尽くした行為。
- 8 人命救助 ……人命の救助、救急、看護など特に顕著な者。
- 9 社会福祉 ……社会福祉施設又は、不遇な人たちへの慰問、激励、各種奉仕、金品の寄付その他社会福祉に尽くした行為。
- 10 その他 ……その他特に善行と認められる行為。

第10条 表彰審査において考慮すべき事項

- 1 青少年が自主的、積極的な意思によって行われたものを尊重する。
- 2 一時的な行為より継続的に長期にわたる行為、負担度や苦労度の多い行為を尊重する。
- 3 同一行為が、他の団体から表彰されたもの並びに当市で表彰されたものであっても、概ね3年を経過したものについては、表彰の対象とする。

第11条 表彰候補者の推薦依頼先

福生市青少年問題協議会委員、福生市内小・中・高等学校長、福生市内小・中PTA会長、福生市青少年育成地区委員長、町会長・自治会長、民生・児童委員、社会福祉協議会、警察署長、消防署長、保護司、防犯協会長

令和6年度「家庭の日」図画・作文コンクール入選作品

図画の部

【1席】福生第三小学校 畑 蓮惟

【2席】福生第一小学校 宮岡 柚菜、 福生第六小学校 横山 莉愛

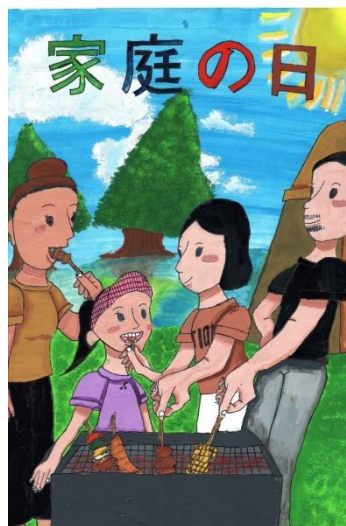
【佳作】20点

作文の部

【1席】福生第二中学校 篠田 百祝

【2席】福生第二中学校 佐々木 夏凜

【佳作】3点



図画の部【1席】畑 蓮惟さんの作品



図画の部【2席】宮岡 柚菜さんの作品



図画の部【2席】横山 莉愛さんの作品

作文の部【1席】 篠田 百祝さんの作品

や、ほり最高。二年三組 篠田 百祝
 「いただきます。毎日言っているこの言葉。兄が高校生になり、なかなか家族全員でご飯を食べられる機会が無くなりました。去年までは家族四人で言っていた。いただきます。さす。一っだけホッとした席、なんだから、これも寂しく感じる。兄は朝早く家を出て、夜遅くに部活から帰ってくる。だから私は兄に会えない時間が増え、こしまった。そんな兄にわかまな私は、なんでも早く行っちゃうの。部活なんかがやめちゃうよ！と。部活もすごく楽しいんだ。でも家族となかなか遊ばなくてすごく寂しい。この言葉を聞いて私は嬉しく思った。兄も私と同じように寂しいな。と思っ。てい。く。れ。た。事。は。父。と。母。と。一。緒。に。ご。飯。を。食。べ。る。事。が。

コウロ ケー10 20X20

食べている。そこで私は決めた。私も早起きをし、兄と一緒に朝ご飯を食べる事を。翌朝、起きたら「本当に朝ご飯!?」と思っ。う。ほ。ど。の。母。の。手。料。理。が。並。ん。ぶ。あ。っ。た。ま。ま。と。私。が。夢。の。中。に。い。る。間。に。母。が。早。起。き。を。し。一。生。懸命。作。っ。て。く。れ。た。ん。だ。ろ。う。又。し。ふ。り。に。家。族。四。人。全。員。が。机。を。囲。み。い。た。だ。き。ま。す。！。と。言。う。事。が。ひ。ま。り。ま。た。こ。こ。最。近。は、寂。し。く。感。じ。て。い。た。っ。い。た。だ。き。ま。す。！。今。日。は。同。じ。言。葉。な。の。に。い。つ。も。よ。り。重。く。感。じ。自。分。で。も。分。か。っ。て。し。ま。う。ほ。ど。突。顔。だ。っ。た。ご。飯。を。食。べ。て。い。る。時。も。家。族。を。突。わ。せ。よ。う。と。ふ。ざ。け。て。い。る。父。を。見。て。大。爆。笑。し。て。い。る。兄。を。見。て。こ。の。大。切。な。時。間。を。美味。しい。料。理。が。作。っ。て。く。れ。た。母。を。見。て。は。り。家。族。は。一。人。で。も。欠。け。た。さ。が。メ。ン。だ。な。！。と。改。め。て。感。じ。た。

ところが遊びに行、たわけでもない。特別な事をしたわけでもない。なのに私にとっ。て。は。す。ご。く。楽。しい。時。間。で。最。高。な。宝。物。に。な。っ。た。家。族。み。ん。な。の。突。顔。は。家。宝。だ。

コウロ ケー10 20X20

作文の部【2席】 佐々木 夏凜さんの作品

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| た | 私 | り | う | ひ | も | 揃 | も | ハ | に | 私 | す | て | く | 講 | リ | 夏 | い | 家 | 族 |
| た | は | 話 | に | は | 何 | え | テ | る | に | の | 。 | れ | 時 | 習 | 休 | 休 | 休 | 族 | と |
| め | 、 | が | し | ご | 十 | て | ー | こ | 食 | 家 | 。 | ま | 間 | が | み | 休 | 休 | と | 過 |
| 小 | 中 | で | て | 飯 | 倍 | 食 | グ | の | べ | 族 | 。 | さ | に | 始 | の | 休 | 休 | ご | す |
| 学 | 学 | 可 | 食 | の | も | ま | ル | 時 | る | 皆 | 。 | は | 合 | ま | 時 | の | 休 | 時 | 間 |
| 生 | 生 | 一 | べ | 時 | 美 | ま | に | 間 | よ | 好 | 。 | そ | わ | る | 間 | 間 | の | 間 | 間 |
| の | に | の | ま | は | 味 | 。 | 運 | が | し | き | 。 | は | て | か | 。 | は | の | 。 | 。 |
| 頃 | な | 時 | す | 、 | し | 。 | ひ | 家 | て | だ | 。 | は | 早 | ら | 。 | 。 | 。 | 。 | 。 |
| よ | り | 間 | 。 | 。 | く | 。 | 。 | 族 | い | か | 。 | 。 | 。 | 。 | 。 | 。 | 。 | 。 | 。 |
| り | 部 | だ | 。 | 。 | 。 | 。 | 。 | 。 | 。 | 。 | 。 | 。 | 。 | 。 | 。 | 。 | 。 | 。 | 。 |
| も | 活 | か | 。 | 。 | 。 | 。 | 。 | 。 | 。 | 。 | 。 | 。 | 。 | 。 | 。 | 。 | 。 | 。 | 。 |
| 家 | や | ら | 。 | 。 | 。 | 。 | 。 | 。 | 。 | 。 | 。 | 。 | 。 | 。 | 。 | 。 | 。 | 。 | 。 |
| 族 | 塾 | こ | 。 | 。 | 。 | 。 | 。 | 。 | 。 | 。 | 。 | 。 | 。 | 。 | 。 | 。 | 。 | 。 | 。 |
| と | で | ら | 。 | 。 | 。 | 。 | 。 | 。 | 。 | 。 | 。 | 。 | 。 | 。 | 。 | 。 | 。 | 。 | 。 |
| 話 | 忙 | こ | 。 | 。 | 。 | 。 | 。 | 。 | 。 | 。 | 。 | 。 | 。 | 。 | 。 | 。 | 。 | 。 | 。 |
| す | し | ら | 。 | 。 | 。 | 。 | 。 | 。 | 。 | 。 | 。 | 。 | 。 | 。 | 。 | 。 | 。 | 。 | 。 |
| 時 | く | 。 | 。 | 。 | 。 | 。 | 。 | 。 | 。 | 。 | 。 | 。 | 。 | 。 | 。 | 。 | 。 | 。 | 。 |
| 間 | な | 。 | 。 | 。 | 。 | 。 | 。 | 。 | 。 | 。 | 。 | 。 | 。 | 。 | 。 | 。 | 。 | 。 | 。 |
| が | な | 。 | 。 | 。 | 。 | 。 | 。 | 。 | 。 | 。 | 。 | 。 | 。 | 。 | 。 | 。 | 。 | 。 | 。 |

佐々木 夏凜

コクヨ ケー10 20X20

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 少 | し | 家 | 家 | 族 | 話 | 話 | 話 | 話 | 話 | 話 | 話 | 話 | 話 | 話 | 話 | 話 | 話 | 話 | 話 |
| な | で | 族 | 族 | 皆 | 話 | 話 | 話 | 話 | 話 | 話 | 話 | 話 | 話 | 話 | 話 | 話 | 話 | 話 | 話 |
| く | い | で | で | で | し | し | し | し | し | し | し | し | し | し | し | し | し | し | し |
| な | 。 | 食 | 食 | 事 | も | も | も | も | も | も | も | も | も | も | も | も | も | も | も |
| り | 。 | 事 | 事 | も | す | す | す | す | す | す | す | す | す | す | す | す | す | す | す |
| ま | 。 | も | も | す | る | る | る | る | る | る | る | る | る | る | る | る | る | る | る |
| じ | 。 | す | す | る | こ | こ | こ | こ | こ | こ | こ | こ | こ | こ | こ | こ | こ | こ | こ |
| や | 。 | る | る | こ | に | に | に | に | に | に | に | に | に | に | に | に | に | に | に |
| が | 。 | こ | こ | に | し | し | し | し | し | し | し | し | し | し | し | し | し | し | し |
| 始 | 。 | し | し | し | ま | ま | ま | ま | ま | ま | ま | ま | ま | ま | ま | ま | ま | ま | ま |
| ま | 。 | ま | ま | ま | し | し | し | し | し | し | し | し | し | し | し | し | し | し | し |
| り | 。 | し | し | し | ま | ま | ま | ま | ま | ま | ま | ま | ま | ま | ま | ま | ま | ま | ま |
| ま | 。 | ま | ま | ま | し | し | し | し | し | し | し | し | し | し | し | し | し | し | し |
| す | 。 | し | し | し | ま | ま | ま | ま | ま | ま | ま | ま | ま | ま | ま | ま | ま | ま | ま |
| 。 | 。 | ま | ま | ま | し | し | し | し | し | し | し | し | し | し | し | し | し | し | し |

佐々木 夏凜

コクヨ ケー10 20X20

令和6年度「家庭の日」図画・作文 募集要綱

1 趣旨

「家庭の日」※の図画・作文を市内の小・中学生から募集し、「家庭の日」に対する関心を高め、優秀作品を市内公共施設に掲示するとともに、広報等に発表し、家庭の大切さを訴えるもの

※「家庭の日」とは、青少年の心身ともに健全な育成を図るため、家族全員が顔をそろえて有意義な一日の生活をともにする日とし、毎月第3日曜日とすることを昭和41年に福生市で決議したものをいう。

2 募集者

福生市青少年問題協議会

3 応募対象者

福生市内に在住又は在学する小・中学生

4 応募方法

5に規定する締切日までに持参又は郵送により応募するものとする。

また、題名、学校名、学年組、氏名を明記するものとし、学校を通しての応募の場合は、提出者全員の名簿を添付するものとする。

なお、ここで得た個人情報は、この要綱に基づく目的以外には使用しない。

5 応募締切

令和6年9月6日（金曜日）

6 応募先

〒197-8501 東京都福生市本町5番地

福生市役所 子ども家庭部 子ども政策課 子ども政策係 宛て

7 題材

「家庭の日」又は家庭にちなんだ図画・作文

- ・(例) 私の家族、私のお父さん、私のお母さん、家族での思い出（家族旅行、スポーツ、料理や掃除のお手伝いなど）
- ・図画の大きさは、B2判からB5判までとする。
- ・作文は、800字以内とする。
- ・「家庭の日」啓発事業であるため、図画にはできる限り「家庭の日」の文字を入れるものとする。

8 賞

図画は、小・中学生から1席1点、2席2点、佳作数点とする。

作文は、小・中学生から1席1点、2席1点、佳作数点とする。

ただし、該当作品がない場合は、この限りでない。

また、応募者全員に参加賞を贈るものとする。

9 展示

令和6年12月21日（土曜日）から令和7年1月17日（金曜日）までの間、市役所1階北側玄関付近に入選作品（図画・作文）を展示するものとする。

10 その他

1席、2席、佳作、参加賞の賞品は、原則として学用品とする。

市広報、ホームページ等により、入選者の氏名等の情報を掲載するものとする。

11 問合せ先

福生市青少年問題協議会事務局

福生市子ども家庭部子ども政策課子ども政策係

電話 042-551-1733（直通）

善行少年表彰 被表彰者



「家庭の日」図画・作文コンクール 1席・2席入選者



第31回 福生市青少年の意見発表大会記録集

令和7年1月

発行：福生市青少年問題協議会

編集：福生市 子ども家庭部 子ども政策課

〒197-8501 福生市本町5番地

電話 042-551-1733

FAX 042-551-2133



